

AST (GOT)

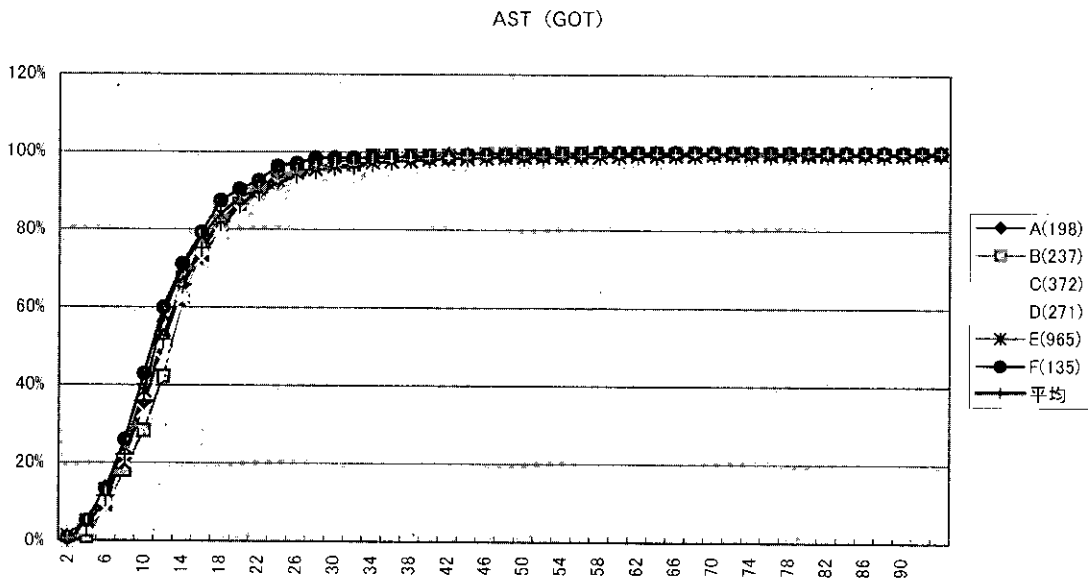
項目名	単位	下限	上限
AST (GOT)	IU/L	5	40

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	5	注意	栄養状態、VB 欠乏注意	(なし)	5 以下は 2.0%
上限	40	注意	肝機能に異常があります。必要に応じ検査治療を。	肝機能に異常があります。経過をみる必要があります。	40 以上は 1.7%
	80	警戒	肝機能に異常があります。必要に応じ検査治療を。初回異常 Dr 上申。	肝機能に異常があります。体調に異常があるときはスタッフへ。	100 以上は 0.3%
	200	警告	肝機能に異常があります。必要に応じ検査治療を。Dr 上申。	肝機能に異常があります。体調に異常があるときはスタッフへ。	200 以上は 0.0%

注釈

透析患者では、ビタミン B₆ の欠乏により AST、ALT が低くなる。
 上限値以内でも異常がある場合があり、今後どのようにチェックするか検討中。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	GOT (AST)	UV 法 (JSCC 準拠法)	5	~	33	IU/L
院内 2	AST (GOT)	JSCC 準拠法	10	~	27	IU/L
院内 3	GOT (AST)	UV 法 (JSCC 準拠法)	10	~	40	IU/L/37°C
院外 1	GOT (AST)	UV 法 (JSCC 準拠法)	5	~	40	IU/L/37°C
院外 2	AST (GOT)	UV 法 (JSCC 準拠法)	10	~	40	IU/L/37°C
院外 3	AST (GOT)	UV 法 (JSCC 準拠法)	10	~	40	IU/L/37°C

ALT (GPT)

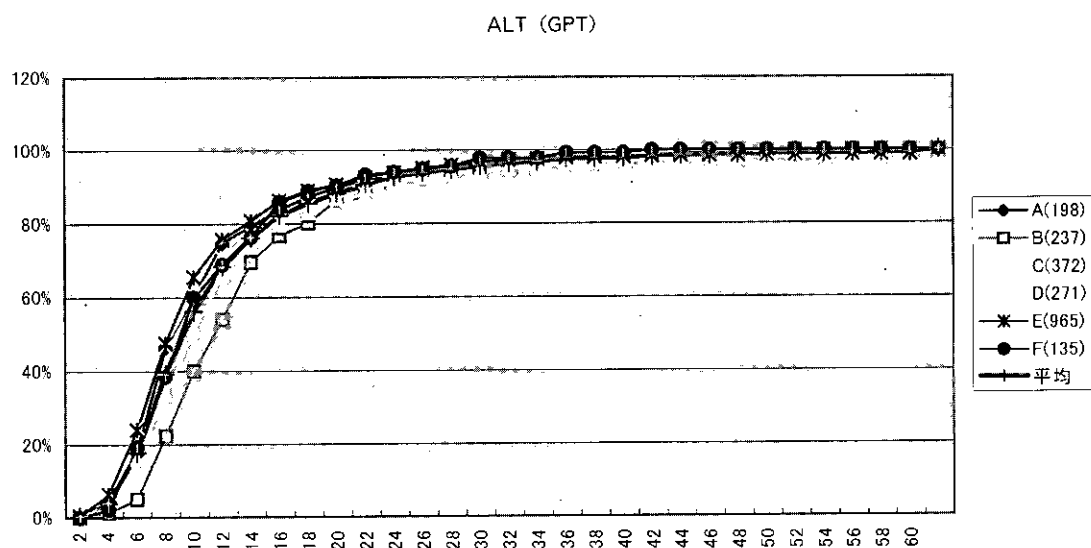
項目名	単位	下限	上限
ALT (GPT)	IU/L	5	20

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	5	注意	栄養状態, VB ₆ 欠乏注意	(なし)	5以下は 8.0%
上限	20	なし	HCV-RNA を一度はチェック! HCV (-) でも陽性的場合があります。	(なし)	20以上は 11.6%
	40	注意	肝機能に異常があります。 必要に応じ検査治療を。	肝機能に異常があります。 経過をみる必要があります。	40以上は 2.2%
	80	警戒	肝機能に異常があります。 必要に応じ検査治療を。 初回異常 Dr 上申	肝機能に異常があります。体調に 異常があるときはスタッフへ。	100以上は 0.7%
	200	警告	肝機能に異常があります。 必要に応じ検査治療を。 Dr 上申	肝機能に異常があります。 体調に異常があるときはスタッフ へ。	200以上は 0.0%

注釈

透析患者では、ビタミンB₆の欠乏によりAST, ALTが低くなる。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内1	GPT (ALT)	UV 法	ゲルタミン酸ビルビン酸	3	~	36	IU/L
院内2	ALT (GPT)	JSCC 準拠法		5	~	33	IU/L
院内3	GPT (ALT)	UV 法		5	~	40	IU/L/37°C
院外1	GPT (ALT)	UV 法	(JSCC 準拠法)	5	~	40	IU/L/37°C
院外2	ALT (GPT)	UV 法	(JSCC 準拠法)	5	~	45	IU/L/37°C
院外3	ALT (GPT)	UV 法	(JSCC 準拠法)	5	~	45	IU/L/37°C

γ-GTP

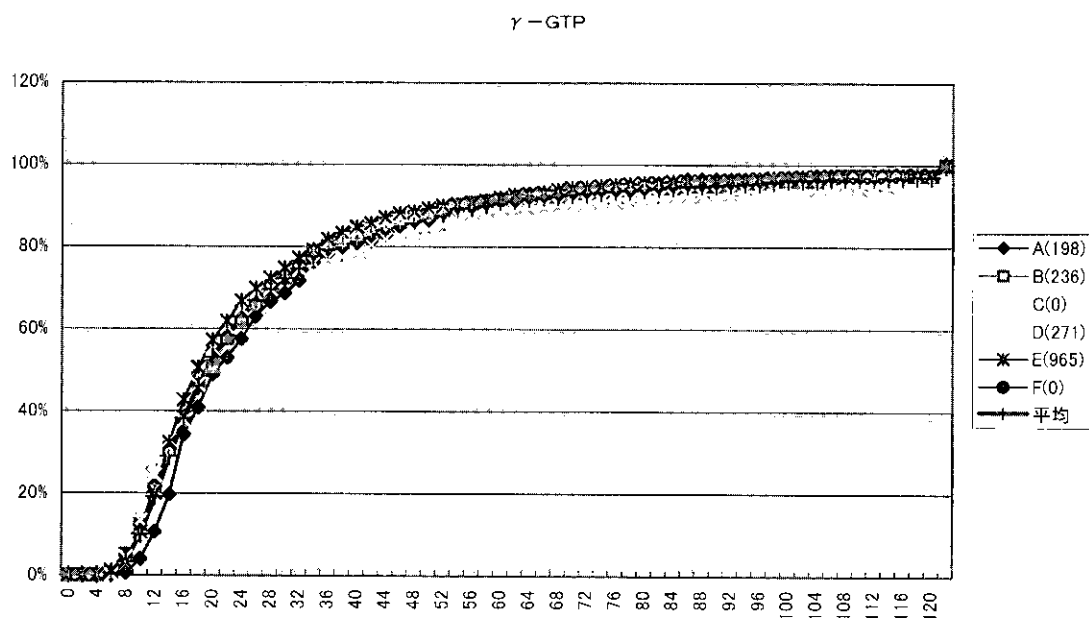
項目名	単位	下限	上限
γ-GTP	IU/L	(なし)	80

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
上限	80	注意	肝機能に異常があります 必要に応じ検査治療を、	肝機能に異常があります。 経過をみる必要があります。	80 以上は 5.9%
	200	警戒	肝機能に異常があります。 必要に応じ検査治療を。 Dr 上申	肝機能に異常があります。 体調に異常があるときはスタッフ へ、	200 以上は 1.4%

注釈

透析患者も健常人と差はない。ビタミン B₆ の欠乏は影響なし。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	γ-GTP	L-γ-グルタミン-3-カルボキシ-4-ニトロアニリド基質法	8	~	76 IU/L	
院内 2	γ-GTP	JSCC 準拠法	M	10	~	66 IU/L
	γ-GTP	JSCC 準拠法	F	10	~	55 IU/L
院内 3	γ-GTP	L-γ-グルタミン-3-カルボキシ-4-ニトロアニリド基質法	M	~	~	70 IU/L/37°C以下
	γ-GTP	L-γ-グルタミン-3-カルボキシ-4-ニトロアニリド基質法	F	~	~	30 IU/L/37°C以下
院外 1	γ-GTP	L-γ-グルタミン-3-カルボキシ-4-ニトロアニリド基質法	M	~	~	70 IU/L/37°C
	γ-GTP	L-γ-グルタミン-3-カルボキシ-4-ニトロアニリド基質法	F	~	~	30 IU/L/37°C
院外 2	γ-GTP	JSCC 準拠	M	~	~	80 IU/L/37°C
	γ-GTP	JSCC 準拠	F	~	~	30 IU/L/37°C
院外 3	γ-GTP	比色法 (JSCC 標準化対応法)	M	16	~	73 IU/L/37°C
	γ-GTP	比色法 (JSCC 標準化対応法)	F	8	~	32 IU/L/37°C

総ビリルビン

項目名	単位	下限	上限
総ビリルビン	mg/dL	(なし)	1

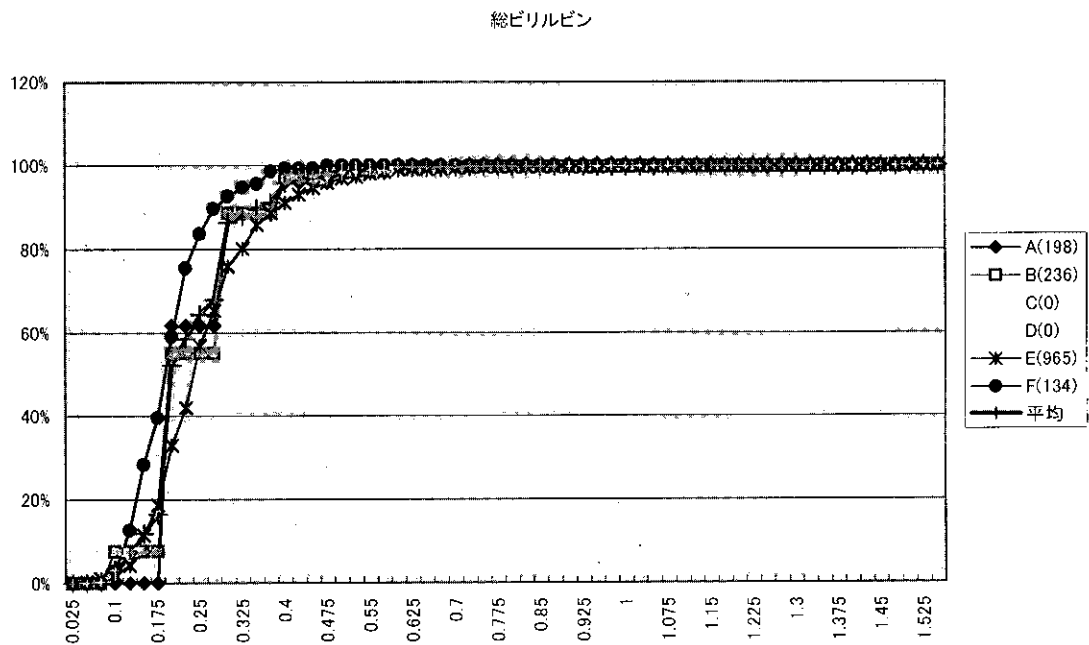
	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
上限	1	注意	肝機能に異常があります。	肝機能に異常があります。	1以上は0.3%
	1.3	警戒	肝機能に異常があります。初回異常値はDr上申。	(なし)	1.3以上は0.1%

注釈

総ビリルビンは透析患者で低くでる。

このため1 mg/dLを超えるときには何らかの異常があると考え。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内1	総ビリルビン	酵素法	0.2	～	1.3	mg/dL
院内2	総ビリルビン	バナジン酸酸化法	0.2	～	1	mg/dL
院内3	総ビリルビン	バナジン酸酸化法	0.2	～	1	mg/dL
院外1	総ビリルビン	バナジン酸酸化法	0.2	～	1	mg/dL
院外2	T-BIL	アゾルビン法	0.2	～	1.1	mg/dL
院外3	ビリルビン(総)	比色法(バナジン酸酸化法)	0.2	～	1	mg/dL

アミラーゼ

項目名	単位	下限	上限
アミラーゼ	IU/L	(なし)	300

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
上限	300	参考	アミラーゼの上昇を認めます。必要に応じて再検を！	(なし)	300 以上は 1.2%

注釈

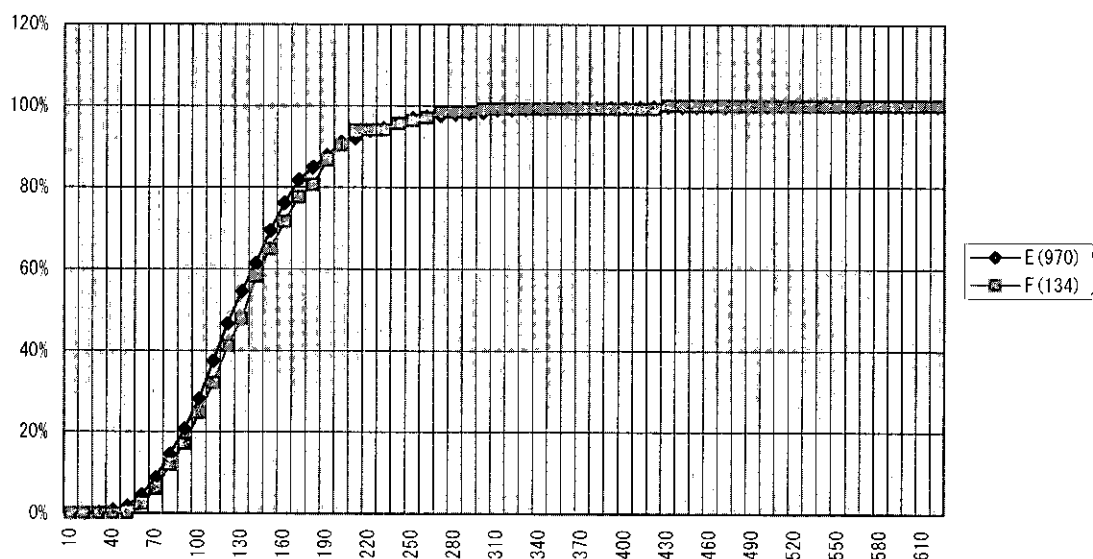
この検査は、検査基準値が施設間でまちまちのため統一不可、参考値とする。

透析患者ではアミラーゼの上昇を認め、健常者の3倍までが正常とされる。

しかし、この範囲でも膵炎が起こることがあり、以前のアミラーゼ値との推移に注意する。

透析患者分布例

アミラーゼ



健常者基準値例

院内 1	アミラーゼ	35	～	132	IU/L
院内 2	血清アミラーゼ	42	～	116	IU/L
院内 3			～		
院外 1	AMY	60	～	200	IU/L/37°C
院外 2	S-AMY	60	～	190	IU/L/37°C
院外 3	AMY	55	～	175	IU/L/37°C

CPK

項目名	単位	下限	上限
CPK	IU/L	30	250

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	30	注意	甲状腺機能低下症等の合併はありませんか？ 栄養状態は？	(なし)	30 以下は 3.3%
上限	250	注意	CPK 上昇時必要に応じ精査、薬剤の影響は？	筋脱力、胸痛ある時はスタッフへ、	250 以上は 4.8%
	450	警戒	CPK 急変化時 Dr 上申、精査、薬剤の影響は？	激しい筋脱力、胸痛ある時はスタッフへ、	450 以上は 0.8%

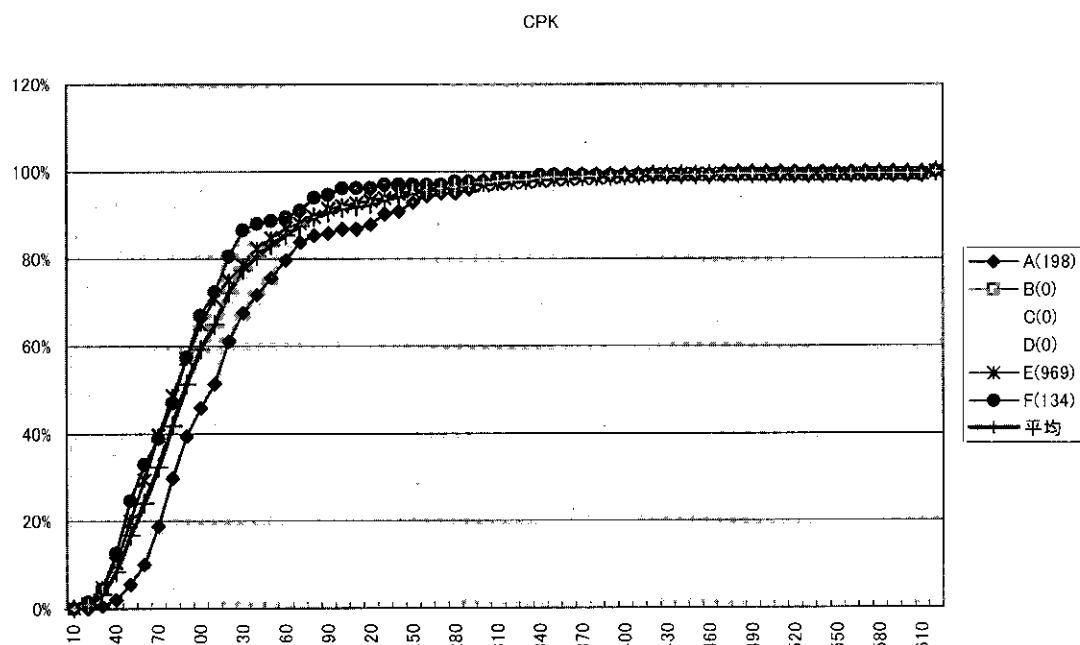
注釈

透析患者では、CPK の値は高くなる。

激しい運動後や薬剤の影響も考慮する。

心筋梗塞では、この基準値範囲内で変化するものもあり、推移をみる必要がある。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	CPK	UV 法		15	~	168	IU/L
院内 2	CPK	JSCC 準拠法	M	24	~	195	IU/L
	CPK	JSCC 準拠法	F	24	~	170	IU/L/37°C
院内 3	CPK	ダブルカイネティック法	M	57	~	197	IU/L/37°C
	CPK	ダブルカイネティック法	F	32	~	180	IU/L/37°C
院外 1	CPK	UV (NAC) 法 (JSCC 準拠法)	M	57	~	197	IU/L/37°C
			F	32	~	180	IU/L/37°C
院外 2	CK	UV 法 (JSCC 準拠法)		60	~	270	IU/L/37°C
院外 3	CPK	UV 法 (JSCC 準拠法)		40	~	150	IU/L/37°C

LDH

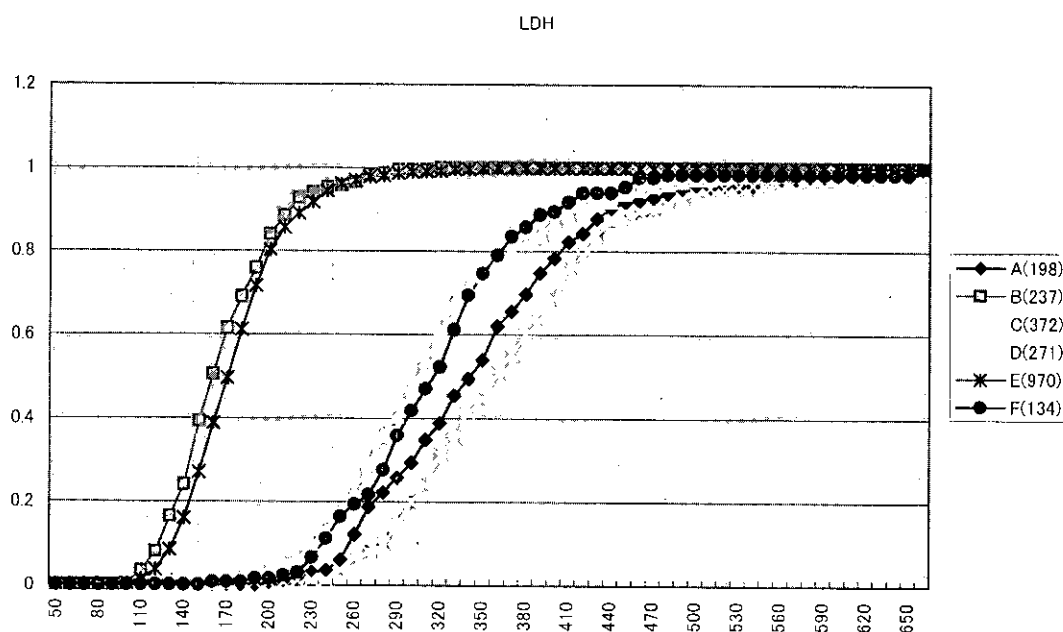
項目名	単位	下限	上限	検査法
LDH P→L	IU/L	(なし)	500	ビルビン酸基質法
LDH L→P	IU/L	(なし)	250	乳酸基質法

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
上限	500 (250)	参考	検査方法による考慮必要。肝機能の異常、溶血の有無は？	(なし)	500 (250) 以上は 4.5%

注釈

この検査は、検査基準値が施設間でまちまちのため統一不可、参考値とする。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	LDH	Wacker-Amador 変法	119	~	230	IU/L
院内 2	LDH	Wroblewski-LaDue 法	180	~	460	IU/L
院内 3	LDH	Wroblewski-LaDue 法	230	~	460	IU/L/37°C
院外 1	LDH	Wroblewski-LaDue 法	230	~	460	IU/L/37°C
院外 2	LDH	UV 法 (JSCC 準拠法)	120	~	240	IU/L/37°C
院外 3	LDH	UV 法 (Wroblewski-LaDue 法)	220	~	430	IU/L/37°C

Ch-E

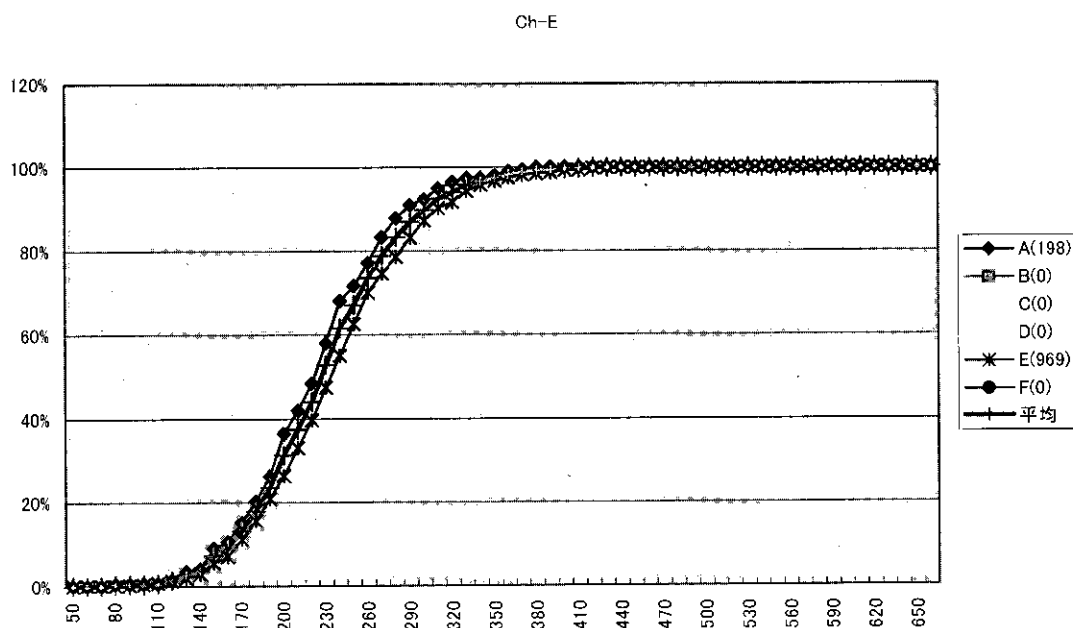
項目名	単位	下限	上限	検査法
Ch-E ジメトキシベン	IU/L	70	150	ジメトキシベンゾイルチオコリン基質法
Ch-E ヒドロベン	IU/L	150	450	ヒドロキシベンゾイルコリン基質法
Ch-E ベンゾイル	IU/L	700	1500	ベンゾイルコリン基質法
Ch-E ブチリルチオ	IU/L	2500	8000	ブチリルチオコリン基質法
Ch-E その他	IU/L	(なし)	(なし)	

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	150 (70, 700, 2500)	参考	検査方法による考慮必要。肝機能の異常？ 栄養状態？ 経過を!!	(なし)	150 以下は 7.3%
上限	450 (150, 1500, 8000)	参考	検査方法による考慮必要。肝機能の異常？ 脂肪肝？	(なし)	450 以上は 0.1%

注釈

この検査は、検査基準値が施設間でまちまちのため統一不可、参考値とする。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	Cho-E	Rate assay		186	~	393	IU/L
院内 2	Cho-E	MTTC 基質法	M	200	~	430	IU/L
	Cho-E	MTTC 基質法	F	180		400	IU/L
院内 3	Cho-E	Rate assay	M	203	~	460	IU/L/37°C
	Cho-E	Rate assay	F	179		354	IU/L/37°C
院外 1	Cho-E	Rate assay	M	203	~	460	IU/L/37°C
	Cho-E	Rate assay	F	179		354	IU/L/37°C
院外 2	Cho-E	ブチリルチオコリン基質法 (DTNB 比色法)	M	3000	~	7000	IU/L/37°C
	Cho-E	ブチリルチオコリン基質法 (DTNB 比色法)	F	3000		7000	IU/L/37°C
院外 3	Cho-E	比色法 (ヨウ化ブチリルチオコリン基質法)	M	3500	~	8000	IU/L/37°C
	Cho-E	比色法 (ヨウ化ブチリルチオコリン基質法)	F	3500		8000	IU/L/37°C

LAP

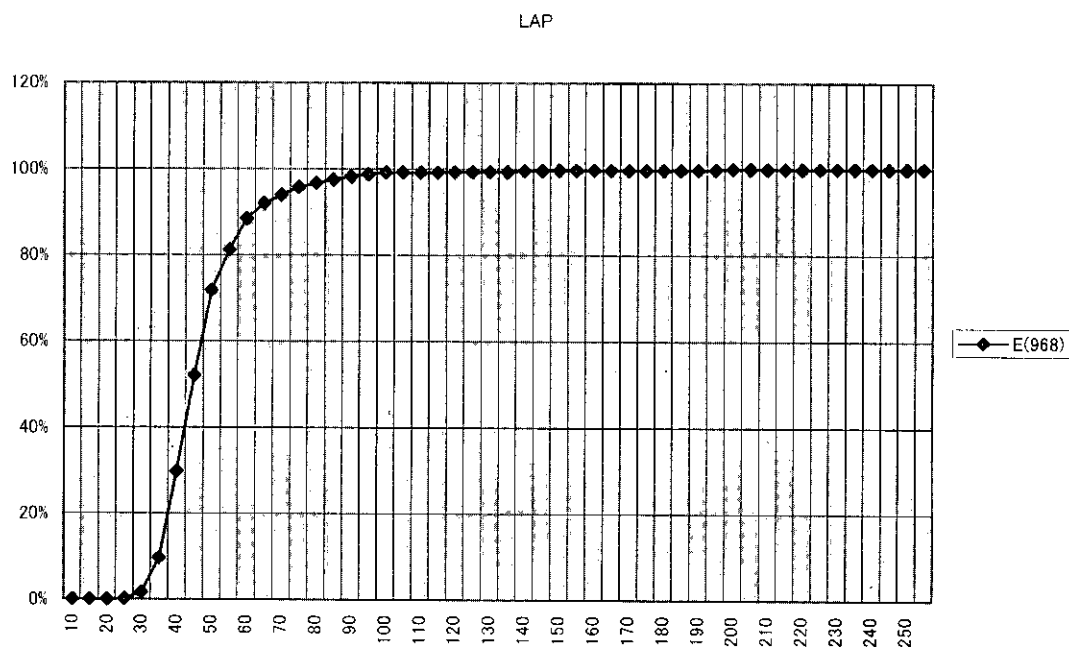
項目名	単位	下限	上限	検査法
LAP LPNA 法	IU/L	(未定)	80	L-ロイシル-p-ニトロアニリド基質法
LAP L β NA 法	IU/L	(未定)	220	L-ロイシル- β -ナフチルアミド基質法
LAP LCH 法	IU/L	(未定)	110	L-ロイシル-3-カルボキシ-4-ヒドロキシアニリド基質法
LAP LA 法	IU/L	(未定)	60	L-ロイシンアミド基質法
LAP その他	IU/L	(なし)	(なし)	

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
上限	80 (220, 110, 60)	参考	検査方法による考慮必要、胆道系 酵素異常？	(なし)	80 以上は 3.3%

注釈

この検査は、検査基準値が施設間でまちまちのため統一不可、参考値とする。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	LAP	L-ロイシル-p-ニトロアニリド基質法		35	~	64	IU/L
院内 2	LAP	L-ロイシル-p-ニトロアニリド基質法		39	~	64	IU/L
院内 3	LAP	酵素法	M	80	~	170	IU/L/37°C
	LAP	酵素法	F	75	~	125	IU/L/37°C
院外 1	LAP	酵素法 (L-Leu-DBHA 基質)	M	80	~	170	IU/L/37°C
	LAP	酵素法 (L-Leu-DBHA 基質)	F	75	~	125	IU/L/37°C
院外 2	LAP	L-ロイシル-p-ニトロアニリド基質法	M	100	~	200	IU/L/37°C
	LAP	L-ロイシル-p-ニトロアニリド基質法	F	80	~	180	IU/L/37°C
院外 3	LAP	比色法 (L-ロイシル p-ニトロアニリド基質法)	M	30	~	78	IU/L/37°C
	LAP	比色法 (L-ロイシル p-ニトロアニリド基質法)	F	30	~	78	IU/L/37°C

ZTT

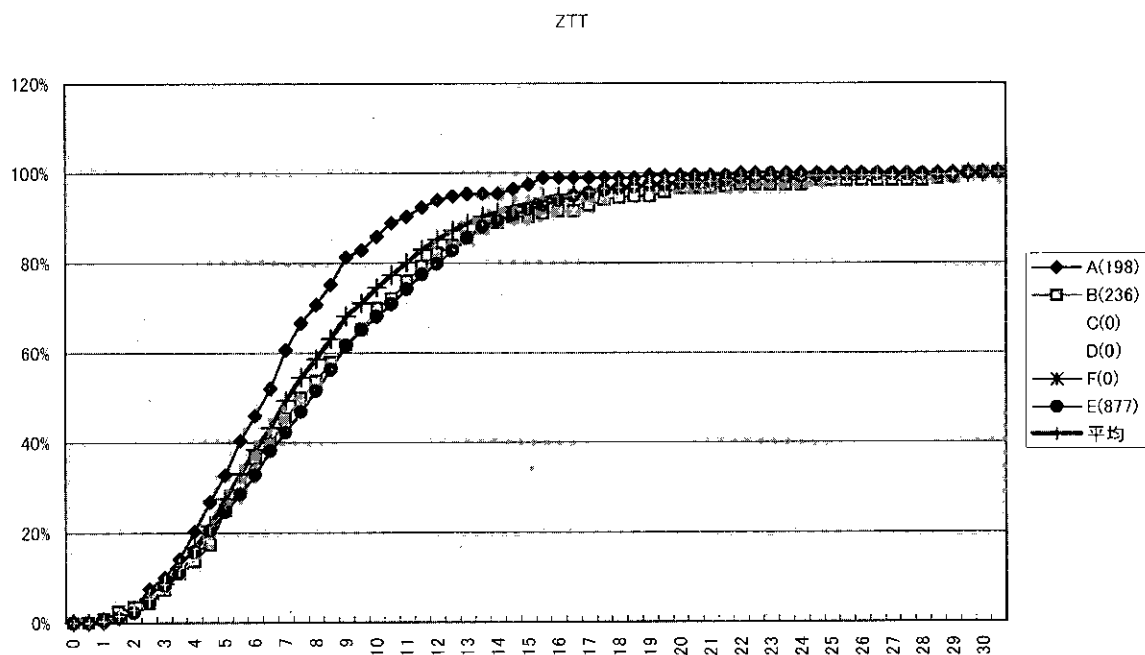
項目名	単位	下限	上限
ZTT	U	2	12

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	2	注意	(なし)	(なし)	2以下は2.9%
上限	12	注意	肝疾患進行度、感染症等チェック	(なし)	12以上は14.7%

注釈

値は透析に影響を受けないが、臨床の意味が曖昧。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内1	ZTT	硫酸亜鉛混濁試験	4	~	12	KU/ml
院内2	ZTT	肝機能	4	~	12	U
院内3	ZTT	消化器学会肝機能班推奨法	2	~	12	U
院外1	ZTT	硫酸亜鉛混濁試験	2	~	12	U
院外2	ZTT	硫酸亜鉛混濁試験	2	~	12	U (Kunkel 単位)
院外3	ZTT	硫酸亜鉛混濁試験	2.3	~	12	U

TTT

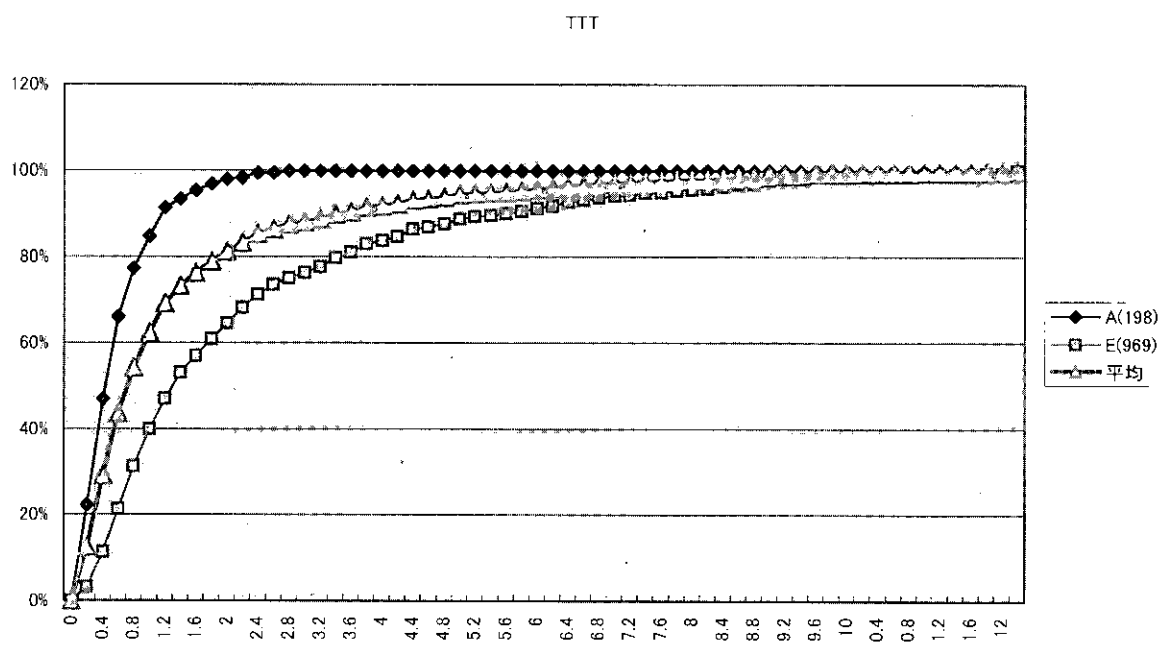
項目名	単位	下限	上限
TTT	U	(なし)	4

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)	(なし)
上限	4	注意	肝疾患進行度、感染症等チェック	(なし)	4以上は9.2%
	10	警戒	(なし)	(なし)	10以上は0.8%

注釈

値は透析に影響を受けないが、臨床的意味が曖昧。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内1	TTT	チモール混濁試験	0	~	4	マクルガン
院内2	TTT	肝機能	0	~	4	U
院内3	TTT	消化器学会肝機能班推奨法	0	~	4	U
院外1	TTT	消化器学会肝機能班推奨法	0	~	4	U
院外2	TTT	チモール混濁試験	0.5	~	6.5	U (Kunkel 単位)
院外3	TTT	チモール混濁試験	0	~	4	U

IgG

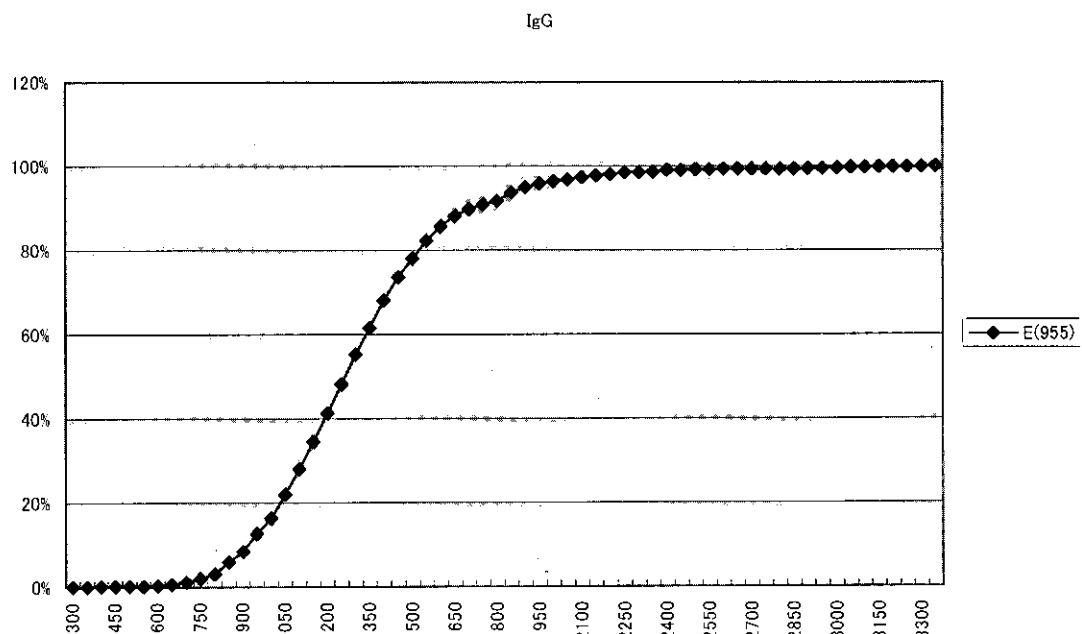
項目名	単位	下限	上限
IgG	mg/dL	800	3000

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	400	警告	免疫グロブリンの低下を認めます。必要に応じ観察を。	(なし)	400 以下は 0.1%
下限	800	注意	免疫グロブリンの低下を認めます。	(なし)	800 以下は 3.0%
上限	1800	注意	免疫グロブリンの異常上昇を認めます。	(なし)	1800 以上は 8.3%
	2500	警戒	免疫グロブリンの異常上昇を認めます。M 蛋白等検査チェックが必要です。	(なし)	2500 以上は 0.8%
	3000	警告	免疫グロブリンの異常上昇を認めます。M 蛋白等検査チェックが必要です。	(なし)	3000 以上は 0.4%

注釈

免疫グロブリンの上昇は、多発性骨髄腫など、低下は後天的免疫グロブリン減少症等注意。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	IgG	免疫比濁法	880	～	1800	mg/dL
院内 2	IgG	免疫比濁法	870	～	1700	mg/dL
院内 3				～		
院外 1	IgG	ラテックス凝集免疫法	880	～	1800	mg/dL
院外 2	IgG	TIA	870	～	1700	mg/dL
院外 3	IgG	免疫比濁法	820	～	1740	mg/dL

IgA

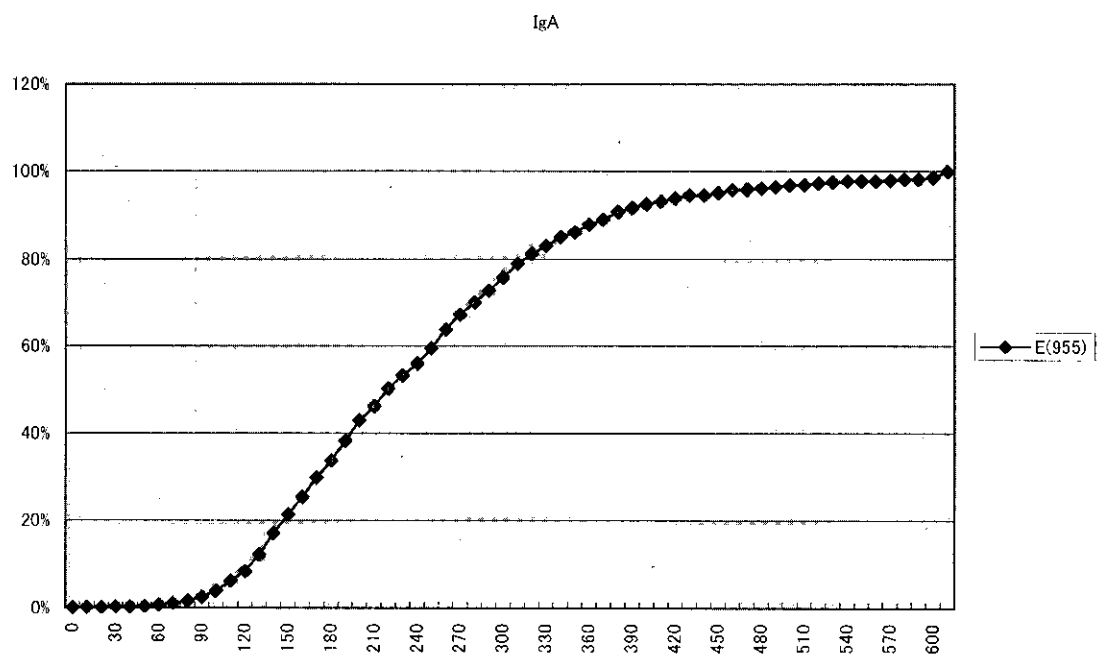
項目名	単位	下限	上限
IgA	mg/dL	100	600

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	40	警戒	免疫グロブリンの低下を認めます。必要に応じ観察を。	(なし)	40 以下は 0.3%
下限	100	注意	免疫グロブリンの低下を認めます。	(なし)	100 以下は 3.9%
上限	600	注意	免疫グロブリンの異常上昇を認めます。	(なし)	600 以上は 1.5%
	1000	警戒	免疫グロブリンの異常上昇を認めます。M 蛋白等検査チェックが必要です。	(なし)	1000 以上は 0.0%

注釈

免疫グロブリンの上昇は、多発性骨髄腫など、低下は後天的免疫グロブリン減少症等注意。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	IgA	免疫比濁法	130	~	350	mg/dL
院内 2	IgA	免疫比濁法	110	~	410	mg/dL
院内 3				~		
院外 1	IgA	ラテックス凝集免疫法	126	~	517	mg/dL
院外 2	IgA	TIA	110	~	410	mg/dL
院外 3	IgA	免疫比濁法	90	~	400	mg/dL

IgM

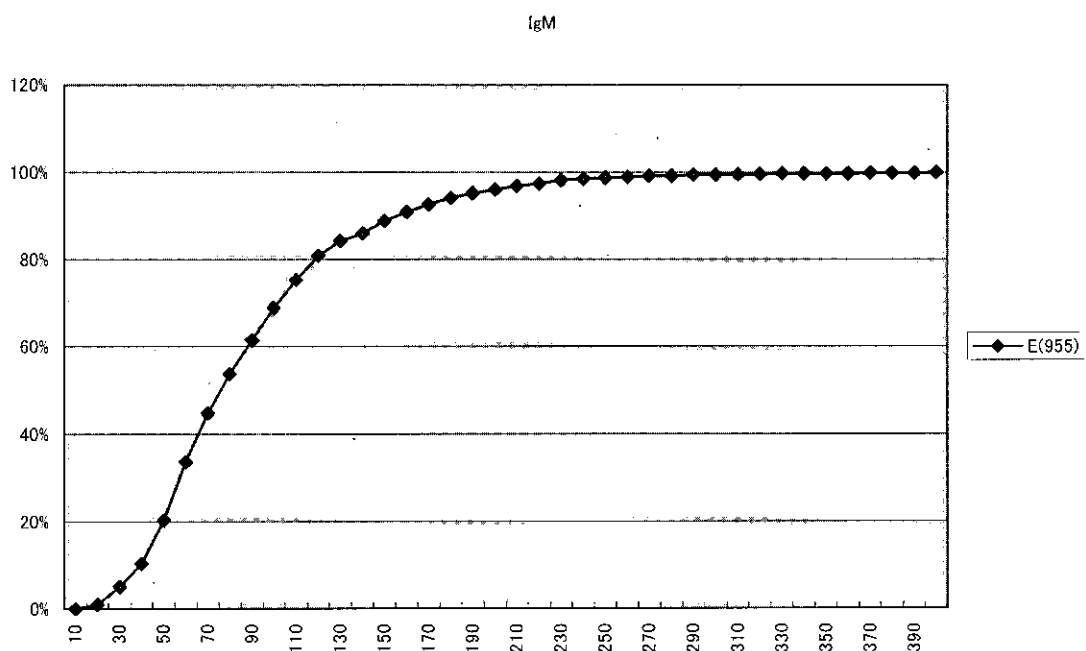
項目名	単位	下限	上限
IgM	mg/dL	30	300

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	5	警戒	免疫グロブリンの低下を認めます。必要に応じ観察を。	(なし)	5以下は0.0%
下限	30	注意	免疫グロブリンの低下を認めます。	(なし)	30以下は5.0%
上限	300	注意	免疫グロブリンの異常上昇を認めます。	(なし)	300以上は0.5%
	1000	警戒	免疫グロブリンの異常上昇を認めます。M蛋白等検査チェックが必要です。	(なし)	1000以上は0.0%

注釈

免疫グロブリンの上昇は、多発性骨髄腫など、低下は後天的免疫グロブリン減少症等注意。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	IgM	免疫比濁法		70	～	180	mg/dL
院内 2	IgM	免疫比濁法	M	32	～	190	mg/dL
	IgM		F	46	～	260	mg/dL
院内 3					～		mg/dL
院外 1	IgM	ラテックス凝集免疫法		52	～	270	mg/dL
	IgM	TIA	M	33	～	190	mg/dL
院外 2	IgM	TIA	F	46	～	260	mg/dL
	IgM	免疫比濁法	M	31	～	200	mg/dL
院外 3	IgM	免疫比濁法	F	52	～	270	mg/dL

C3

項目名	単位	下限	上限
C3	mg/dL	75	160

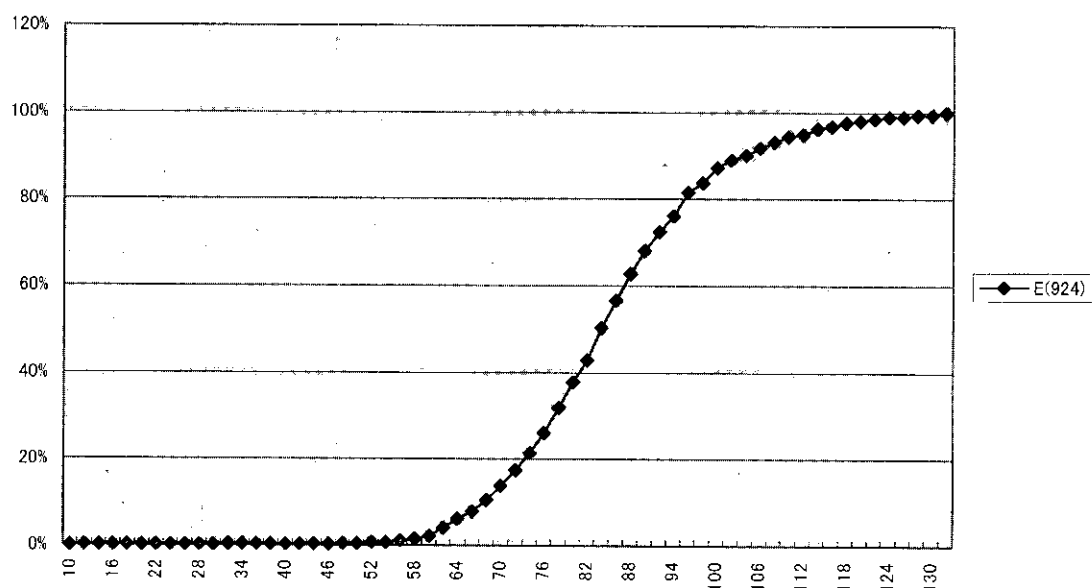
	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	70	警戒	補体低下を認めます。	(なし)	70以下は13.7%
下限	75	注意	(なし)	(なし)	75以下は26.0%
上限	160	注意	(なし)	(なし)	160以上は0.0%

注釈

透析患者の補体は正常者と変化がないという報告もあるが、約26%に低下がみられた。
参考となるデータが少なく今後さらに検討が必要。

透析患者分布例

C3



健常者基準値例

院内1	C3	免疫比濁法	75	～	130	mg/dL
院内2	C3	免疫比濁法	85	～	160	mg/dL
院内3				～		
院外1	C3	ラテックス凝集免疫法	84	～	151	mg/dL
院外2	C3	TIA	65	～	135	mg/dL
院外3	C3	免疫比濁法	80	～	140	mg/dL

C4

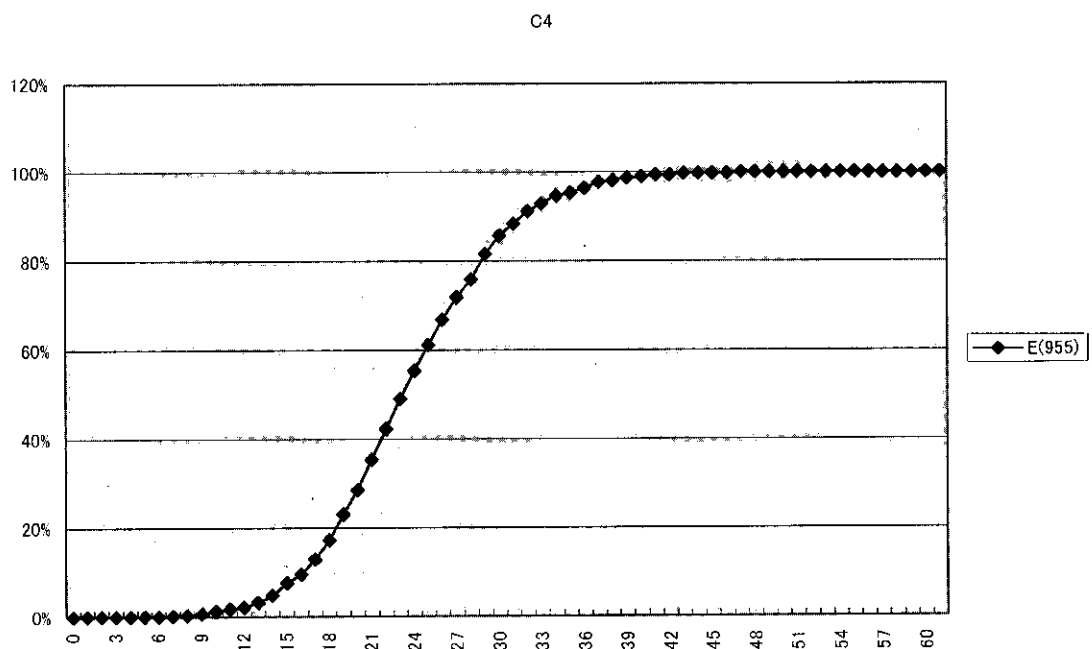
項目名	単位	下限	上限
C4	mg/dL	10	45

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
下限	10	注意	補体低下を認めます。	(なし)	10以下は1.2%
上限	45	注意	(なし)	(なし)	45以上は0.2%

注釈

透析患者の補体 C4 は正常者と変化がないという報告がされている。
参考となるデータが少なく今後さらに検討が必要。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	C4	免疫比濁法	20	～	40	mg/dL
院内 2	C4	免疫比濁法	16	～	45	mg/dL
院内 3				～		
院外 1	C4	ラテックス凝集免疫法	17	～	40	mg/dL
院外 2	C4	TIA	13	～	35	mg/dL
院外 3	C4	免疫比濁法	11	～	34	mg/dL

CH50

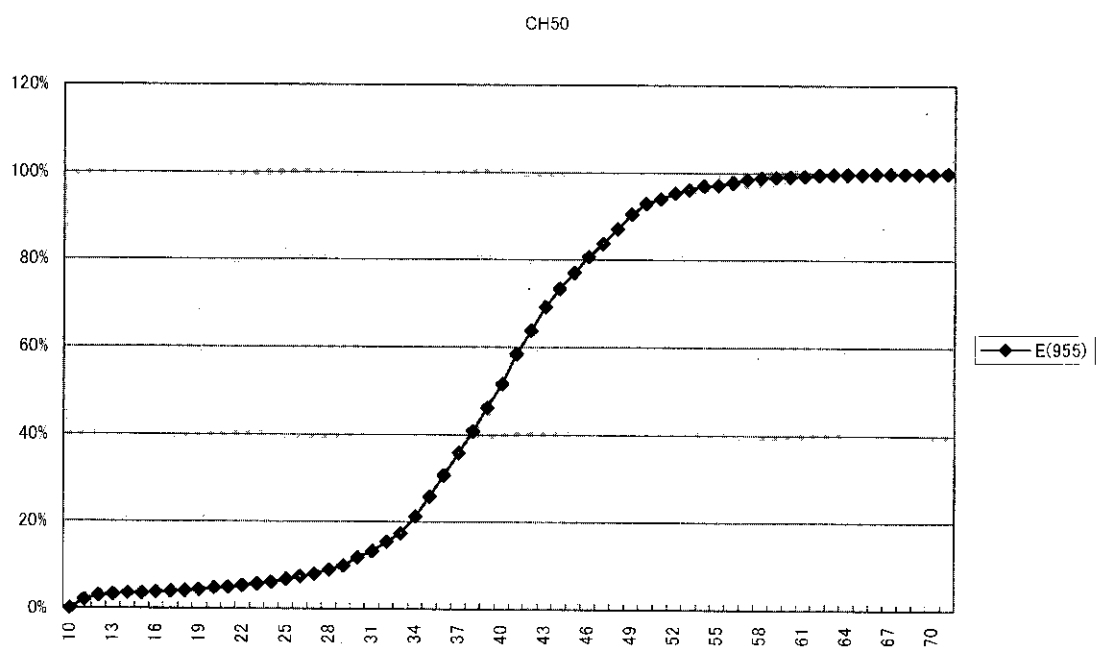
項目名	単位	下限	上限
CH50	U/mL	30	50

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	20	警戒	補体低下を認めます。	(なし)	20 以下は 4.7%
下限	30	注意	(なし)	(なし)	30 以下は 11.7%
上限	50	注意	補体上昇を認めます。	(なし)	50 以上は 7.2%

注釈

透析患者の補体値 CH50 は正常者と変化がないという報告もあるが、約 20% に基準範囲を超えていた。
参考となるデータが少なく今後さらに検討が必要。

透析患者分布例



健常者基準値例

院内 1	CH50	CH50 法	30	~	50	U/mL
院内 2				~		
院内 3				~		
院外 1	CH50	CH50 法	30	~	40	U/mL
院外 2	CH50	Mayer 変法	29	~	48	U/mL
院外 3	CH50	免疫溶血濁度測定法	30	~	45	U/mL

FT3

項目名	単位	下限	上限
FT3	pg/mL	2	5

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	1.4	警戒	甲状腺ホルモンに異常を認めます。TSHと併せて検討して下さい。	(なし)	1.4以下は4.6%
下限	2	注意	(なし)	(なし)	2以下は34.3%
上限	5	注意	甲状腺ホルモンに異常を認めます。TSHと併せて検討して下さい。甲状腺剤投与中?	(なし)	5以上は0.1%
	5.5	警戒	甲状腺ホルモンに異常を認めます。TSHと併せて検討して下さい。甲状腺剤投与中?	(なし)	5.5以上は0.0%

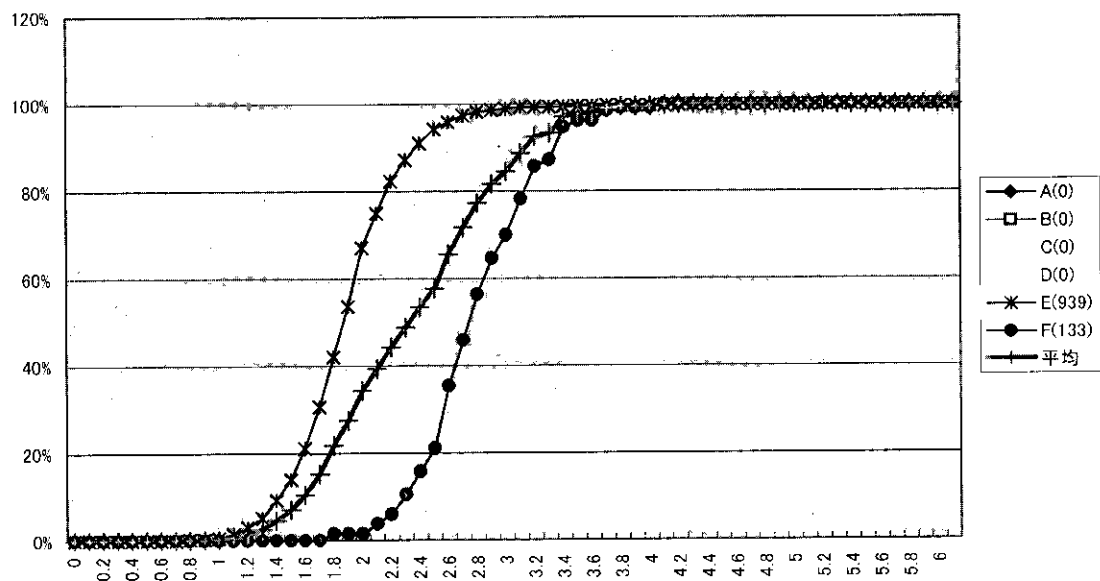
注釈

長期透析により甲状腺機能の低下を認める場合があります定期的なチェックする。TSHと併せて判断する。

特に副甲状腺摘出術後はPTHだけでなく、甲状腺機能も時々検査しておくことが望ましい。

透析患者分布例

FT3



健常者基準値例

院内1	Free T3	CLIA サンドイッチ法	2.6	~	5.08	pg/mL
院内2				~		
院内3				~		
院外1	Free T3	RIA 固相法	2.47	~	4.34	pg/mL
院外2	FT3	CLIA 法	2.1	~	4.1	pg/mL
院外3	FT3	CLIA 法	2.2	~	4.1	pg/mL

FT4

項目名	単位	下限	上限
FT4	ng/dL	0.8	1.8

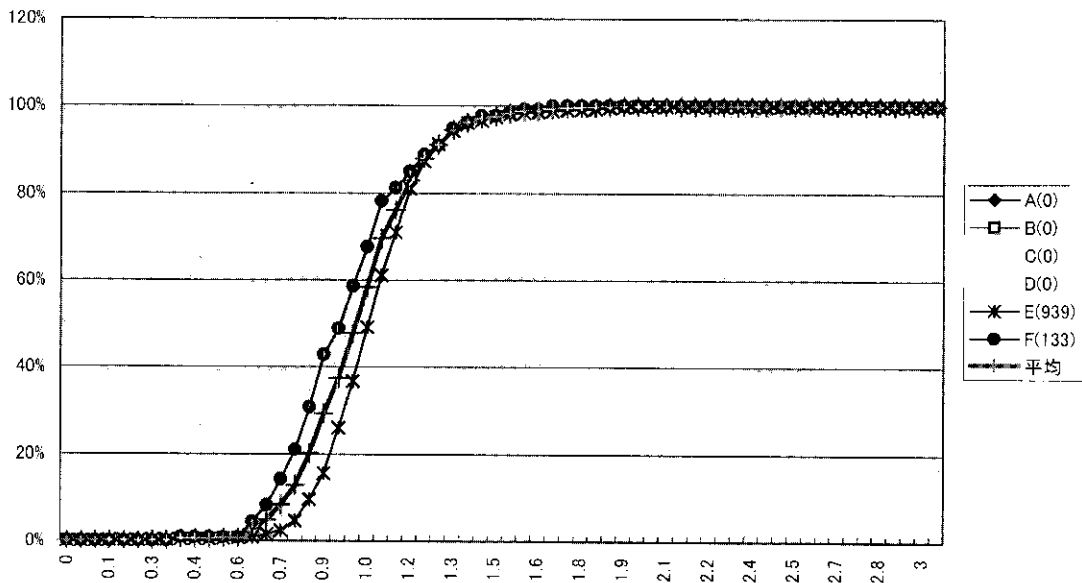
	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	0.5	警戒	甲状腺ホルモンに異常を認めます。TSHと併せて検討して下さい。	(なし)	0.5以下は0.6%
下限	0.8	注意	(なし)	(なし)	0.8以下は12.9%
上限	1.8	注意	甲状腺ホルモンに異常を認めます。TSHと併せて検討して下さい。甲状腺剤投与中?	(なし)	1.8以上は0.5%
	3	警戒	甲状腺ホルモンに異常を認めます。TSHと併せて検討して下さい。甲状腺剤投与中?	(なし)	3以上は0.1%

注釈

長期透析により甲状腺機能の低下を認める場合があります定期的チェックする。
TSHと併せて判断する。
特に副甲状腺摘出術後はPTHだけでなく、甲状腺機能も時々検査しておくことが望ましい。

透析患者分布例

FT4



健常者基準値例

院内1	Free T4	CLIA サンドイッチ法	0.93	~	1.71	ng/dL
院内2				~		
院内3				~		
院外1	Free T4	RIA 固相法	0.97	~	1.79	ng/dL
院外2	FT4	CLIA 法	1	~	1.7	ng/dL
院外3	FT4	CLIA 法	0.8	~	1.7	ng/dL

TSH

項目名	単位	下限	上限
TSH	$\mu\text{U}/\text{mL}$	0.3	5

	基準値	評価	スタッフ向けコメント	患者向けコメント	施設平均患者割合
	0.2	警戒	甲状腺ホルモンに異常を認めます。 必要時検査。 甲状腺剤投与中?	(なし)	0.2以下は0.0%
下限	0.3	注意	(なし)	(なし)	0.3以下は13.8%
上限	5	注意	(なし)	(なし)	5以上は5.4%
	10	警戒	甲状腺機能低下症の可能性があり ます。1度チェックを。	(なし)	10以上は0.9%

注釈

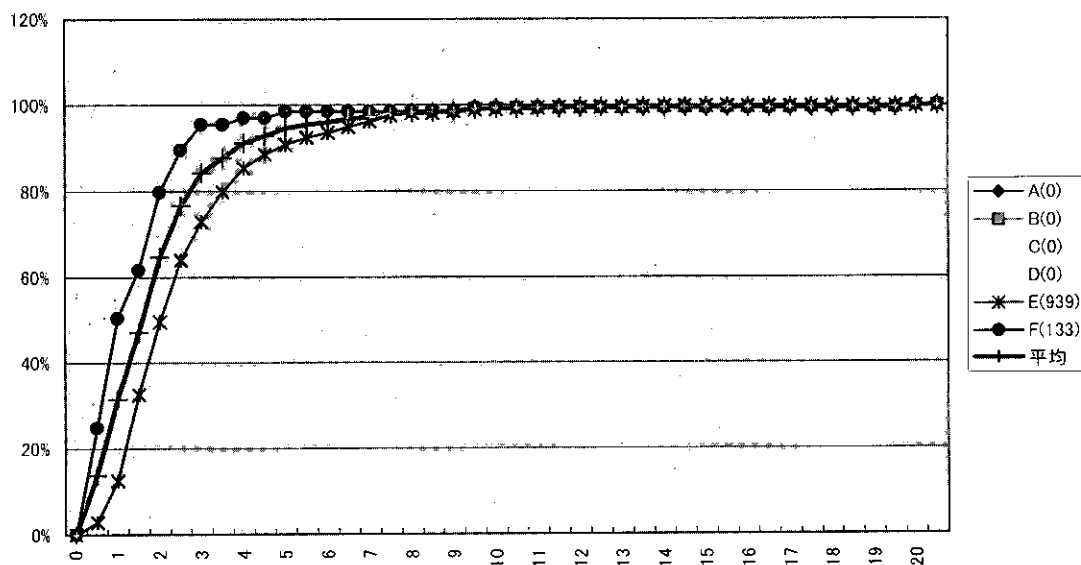
長期透析により甲状腺機能の低下を認める場合があります定期的なチェックする。

TSHと併せて判断する。

特に副甲状腺摘出術後はPTHだけでなく、甲状腺機能も時々検査しておくことが望ましい。

透析患者分布例

TSH



健常者基準値例

院内1	TSH	CLIA サンドイッチ法	0.27	~	4.2	$\mu\text{U}/\text{mL}$
院内2				~		
院内3				~		
院外1	TSH	RIA 固相法	0.34	~	3.5	$\mu\text{IU}/\text{mL}$
院外2	TSH	CLIA 法	0.436	~	3.78	$\mu\text{IU}/\text{mL}$
院外3	TSH	CLIA 法	0.4	~	3.7	$\mu\text{IU}/\text{mL}$